

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	人間情報論1		
英文授業科目名	Human Informatics 1		
開講年度	2007年度	開講年次	
開講学期	前学期	開講コース・課程	博士前期・後期課程
授業の方法		単位数	2
科目区分	情報システム学研究科-情報メディアシステム学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	情報メディアシステム学専攻		
担当教官名	出澤 正徳		
居室	IS-421		

公開E-Mail	授業関連Webページ
idesawa@is.uec.ac.jp	

【講義の狙い，目標】

人間と外部環境との界面として重要な役割を演じている感覚系の性質やメカニズムに関して学び探求する。望ましい情報システムのあり方を考える上での基礎となる。

【内容】

情報システムが日常生活にまで深く浸透し、人間と情報システムとの関わり合い（相互作用）がますます増大し、情報システムは日常生活においても必要不可欠な道具となりつつある。人間の活動の多くの部分は情報処理そのものであり、人間の情報処理メカニズムをお手本にした情報システムや人間の機能を拡大・補完するための情報システムの実現も期待されている。情報システムは利便性の向上に役立つ反面、それを利用している人間自体をも変化させてしまう。情報システムを扱えるか否かで生じる享受できる恩恵の差（情報格差：digital divide）の解消のみでなく、情報システムの過剰利便性による本来の機能の退化（情報退化：digital degeneration）の防止ということも重要な課題となる。本講義では望ましい情報システムのあり方を考える上で必要な人間と外部環境との界面としての感覚系の性質やメカニズムに関して講義する。具体的には視覚、聴覚、触覚などを中心とした外部環境の情報を取得する感覚系の仕組みから心理現象としての知覚の性質などが中心となる。

Information system has been penetrating deeply into our daily life and it became one of the indispensable tools; not only to overcome “digital divide” but also to prevent “digital degeneration” might be the important issues. For considering desirable information system should be, the characteristics and the mechanism of human sensory system and motion system which were needed for composing the interface between human and the outside world should be main issue.

【教科書，参考書】

教科書は使用しない。講義時に複数の参考書を紹介する。

電気通信大学 平成19年度シラバス

【予備知識】

特に必要としない。

【演習】

講義のはじめあるいは終わりに小課題を考えてもらう。

【成績評価方法及び評価基準】

レポート及び講義時に行う小課題等を総合して評価する。

【その他】

関連分野における最新の話題、研究動向にも触れ、参考書や文献を批判的に読み、自ら考え学んでゆける能力を養う。